

ごっぴーの 歩き 見えて



チェルノブイリでは28年たっても
30km圏内立ち入り禁止



ありえない!こんな注意事項

- ・被ばく防止のため自動車のみ通行可能
- ・バイクや自転車、歩行者は通行禁止
- ・帰還困難区域内のため駐停車はできず、脇道への進入も禁止。

※区間内の平均空間放射線量は毎時3.8μSv。最大値は大熊町内の毎時17.3μSv。
※内閣府原子力災害現地対策本部の有倉陽司参事官は「不要不急の通行は避け、通行時は窓を閉め切ってください」と呼び掛けた。



9月15日に政府が通行規制を解除した国道6号線を恐怖を感じながらも車で走ってみました。

立ち入り禁止の帰還困難区域(年間被ばく放射線量が50mSvを超える地域)にある福島第一原発の西側を通る14kmの区間です。(福島第一原発から直線距離で約6km) 楢葉町から国道6号線に出て北上。線量計の数値はどんどん上がり、双葉町手前で9.4μSvの最高値となりました。その途中、高線量の中で、除染作業や警備のために労働者が働いていました。沿線の脇道への進入を防ぐバリケードが異様でした。

福島第一原発事故の収束もしていない中、年間被ばく放射線量の基準を勝手に20mSvに上げて避難区域の住民の帰還を強制し、また労働者に無用の被ばく労働を押しつける国道6号線の通行規制解除は今すぐにでもやめるべきだと思います。

子どもも大人も受けましょう! 甲状腺エコー検査

実施日: 月 木 金 土 日 (月・木曜日は午前のみ)

※金、土は乳腺エコー検査もやっています



お問い合わせ、ご予約は
お電話でどうぞ 024-573-9335

土日に受診できるから助かるなあ

「ここから通信」
編集委員が始めました!
気をつかうことなく
心配なこと、不安なこと
みんなで話そう!
はなしば
開催日時、場所はこちらまで
お問い合わせ下さい
hanashiba8748@gmail.com
TEL: 024-573-9335

編集後記

県知事選が
はじめた。
「オール福島」
を掲げるもの同士の「復興」合戦。小児甲状腺がん多発の現実や原発労働者の労働条件・健康問題など見すえたくないものはじめから無視。福島切り捨ての現実は何も変わらない。私たちの未来は「一票」にたくすのではなく、自分たちの力で切り拓く以外ないと、誰もが実感した「3・11」を思い出そう。(え)

カラダ 食の こころぐるり

診療所報告会での
試食コーナーが好評でした!
食事・呼吸による内部被ばく問題は心
重いことです。その軽減に少しでも役に
立つ情報を提供するコーナーになればい
いかな、と試みました。

小さな玄米おにぎりの産地は、広島。塩麴の漬物のキュウリは千葉県三里塚産。びわ茶は山口県祝島産でした。

報告、講演の休憩時間に多くの方が集まり、塩麴の美味しさ、作り方などにも話題が及んで、あらたな交流も生まれていました。

担当は、福島駅東口で毎週金曜日原発いらないの行動にも立っているTさんをはじめとする婦人民主クラブの方々。みんな繋がれば、なんでもできてしまう! そう実感した時間にもなりました。

ふくしま共同診療所 Newsletter

第7号 季刊-秋号-



診療時間：9：30-12：30/14：30-18：00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科
〒960-8068
福島市太田町20-7 佐周ビル1階
TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

ここから通信

9月7日、第5回ふくしま共同診療所報告会を開催しました。約130名の方が参加され、診療所医師からの診療報告と県立医大による県民健康調査の問題点を指摘しました。その後、国会事故調査委員会での「低線量放射線の健康影響」を担当された崎山比早子先生が講演しました。最後に、参加者との質疑応答、個別相談会を実施しました。

甲状腺エコー検査から見てきたもの 松江院長

- ・私は放射線科医であるが、これまで放射線はゼロ以外は危険だという前提でやってきた。これくらいの放射線被ばくは安全というのは間違っている。
- ・小児甲状腺がんを心配する多くのお母さんたちが子どもの甲状腺エコー検査を受けにきている。
- ・エコー検査の結果、甲状腺に何らかの異常がある子どもが391人(62%)となっている。
- ・甲状腺に異常がある場合は、半年に1回必ず検査をするように話している。

甲状腺に関する血液検査の項目 平岩医師

- ・画像として現れてこない甲状腺の疾患に対して、6項目の血液検査を実施している。
- ・血液検査の結果、異常所見、異常所見の疑いが78人(22%)となっている。

県民健康調査を批判する 布施医師

- ・日本の全小児がんの発症率は、1万人に1人とされているが、福島では小児甲状腺がんだけで約3000人に1人見つかった。それでも「放射能の影響ではない」というなら全国で小児甲状腺エコーを早急に行うべき。
- ・甲状腺エコー検査受診者は、全体の8割に留まっている。県立医大の集団検診方式のみの検査ではなく、もっと多くの医療機関で受診できるようにすべきだ。
- ・今回の甲状腺がんの最小腫瘍径は、5.1mmであり、5mm以下で見落とされA2(異常なし再検査なし)と判定された人がいる可能性がある。2年ごとではなく、半年に1度検査をすべきだ。

参加された方から

- ・自分の孫が県の検査で甲状腺異常があったと心配されている方からの質問、また小児甲状腺がんの増加、内部被ばくに関する不安や心配、県民健康調査に対する不満の声があがりました。

県民健康調査<二次検査結果>

(2014.8.24発表)

- ・甲状腺がんおよび疑いの子ども 104人
3000人に1人の割合
- ・手術を受けた子ども 58人※がん確定57人、良性1人
- ・年齢(震災当時) 6歳~18歳
- ・性別: 男性36人、女性68人
- ・腫瘍径: 5.1mm~40.5mm
(2014年6月30日現在 296,026人検査実施)

<がんおよび疑い103人の市町村別内訳>

【国が指定した避難区域等の13市町村】
2011年度検査

- 3人: 田村市
- 2人: 川俣町、浪江町、南相馬市、伊達市
- 1人: 川内村、富岡町、大熊町
- 0人: 飯舘村、広野町、楢葉町、双葉町、葛尾村

【中通り】
2012年度検査

- 23人: 郡山市
- 12人: 福島市
- 6人: 白河市
- 5人: 二本松市
- 4人: 須賀川市
- 3人: 本宮市
- 2人: 大玉村
- 1人: 西郷村、泉崎村、三春町、石川町、平田村、棚倉町

【浜通り】
2013年度検査

- 19人: いわき市

【会津地方】
2013年度検査

- 5人: 会津若松市
- 1人: 会津坂下町、猪苗代町、下郷町、湯川村